

本県主要魚種の資源評価・管理について

令和4年度沿岸水産資源の資源評価を行うに当たって、資源評価検討会議（以下「検討会議」とする。）を2回開催した。

検討会議では、資源評価基準及び資源評価対象種について検討し、資源評価対象種として選定されたキンメダイなど計17魚種の資源評価表を作成した（R4年度はトラフグを追加）。各魚種の資源評価・管理の概要は以下のとおり。

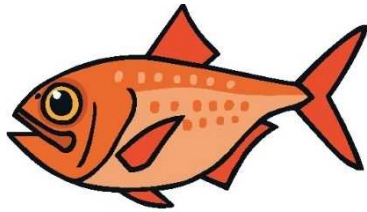
令和4年度資源評価結果の概要

対象魚種	資源水準*1	資源動向*2	主な資源管理措置
キンメダイ	銚子沖：高位 勝浦沖：高位 東京湾口：低位	銚子沖：横ばい 勝浦沖：増加 東京湾口：減少	漁具制限 休漁等
コノシロ（東京湾）	高位	増加	休漁等
スズキ（東京湾）	高位	増加	休漁等
トラフグ	高位	増加	休漁等
ヒラメ	太平洋北部系群：低位 太平洋中部系群：中位	太平洋北部系群：横ばい 太平洋中部系群：横ばい	休漁等
マコガレイ（東京湾）	低位	減少	休漁等
マアナゴ	東京湾：低位 銚子・九十九里：高位	東京湾：不明 銚子・九十九里：増加	漁具制限 休漁等
マダイ	高位	減少	休漁等
クロアワビ	低位	減少	休漁等
メガイアワビ	高位	横ばい	休漁等
サザエ	高位	横ばい	休漁等
ダンベイキサゴ	中位	増加	休漁等
チョウセンハマグリ	高位	増加	休漁等
イセエビ	高位	増加	休漁等
コウイカ	中位	横ばい	休漁等
マダコ	高位	横ばい	休漁等

*1 資源水準：評価期間の資源指標値から4分位により評価し、第1分位数以下を「低位」、第3分位数以上を「高位」、その他を「中位」とした。

*2 資源動向：最近5年間の資源指標値の近似式が年間5%以上増加しているものを「増加」、年間5%以上減少しているものを「減少」、5%以内の増減を「横ばい」、動向の判断ができない場合は「不明」とした。

キンメダイ



- ・水深 200~800m の海山や陸棚縁辺部に生息し、県内では銚子沖、勝浦沖、東京湾口漁場で立縄（釣り）により漁獲される。
- ・満 2 歳で尾叉長 19cm 体重 180g に達した後、4 歳で 27cm 430g、10 歳で 35cm 1,050g に達する。
- ・産卵期は 6~8 月。

資源評価

銚子沖

水準：高位

動向：横ばい



勝浦沖

水準：高位

動向：増加



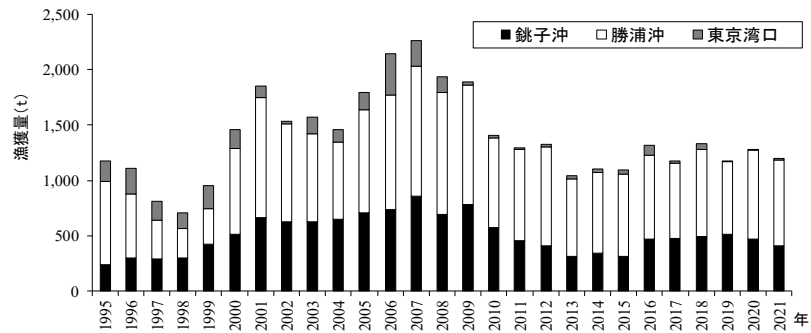
東京湾口

水準：低位

動向：減少



漁獲量



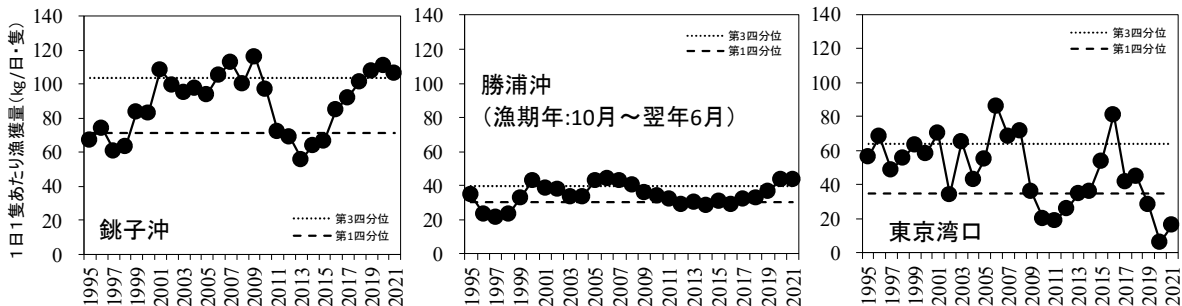
キンメダイの漁場別漁獲量の経年変化（千葉県調べ）

- ・千葉県全体の漁獲量は 1999 年から増加し、2007 年には最大の 2,263t が漁獲された。2008~2013 年は減少傾向が続いたが、2016 年以降は 1,200t 前後で横ばい傾向にあり、2021 年は 1,211t であった。

注) 資源水準は、原則過去 20 年以上の評価指標値 (CPUE) から 4 分位により評価した。
資源動向は、最近 5 年間の評価指標の近似式から年間 5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・資源水準及び動向は、漁場ごとに 1995 年以降の立縄漁業の CPUE (1 日 1 隻あたりの漁獲量) で判断した。
- ・2021 年の資源水準は、銚子沖は高位、勝浦沖は高位、東京湾口は低位水準にある。最近 5 か年の動向は、銚子沖は横ばい、勝浦沖は増加傾向、東京湾口では減少傾向にある。



銚子沖、勝浦沖、東京湾口漁場における立縄漁業による 1 日 1 隻あたり漁獲量の経年変化

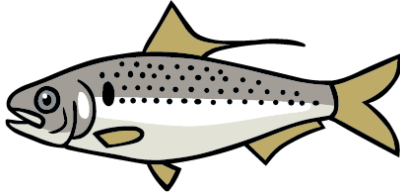
資源管理の取り組み

- ・漁場ごとに小型魚の再放流（銚子沖・勝浦沖全長 25 cm 以下、東京湾口全長 22 cm 以下）、針数・縄数の制限、休漁日の設定などの自主的な資源管理を実践している。

備考

- ・東京湾口漁場では 2009 年以降、漁業者の高齢化等により着業隻数が減少している。
- ・国が実施した資源評価では、関東沿岸から伊豆諸島周辺海域における 2021 年の資源水準は低位、動向は横ばいと判断されている。

コノシロ（東京湾）



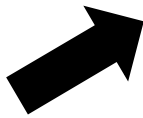
- ・ 漁獲のほとんどが東京湾で、中・小型まき網などで漁獲される。
- ・ 産卵期は4～7月で、産卵場は当初は東京湾の湾口部に形成され、次第に湾奥へ広がる。

資源評価

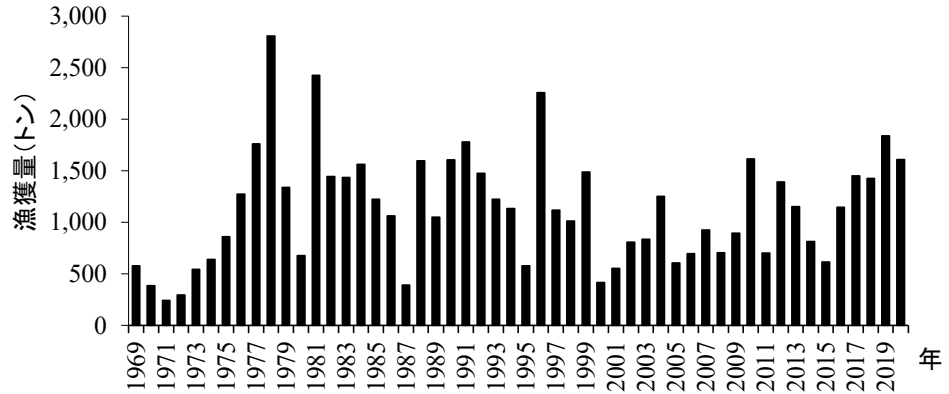
水準：高位



動向：増加



漁獲量



コノシロ漁獲量の経年変化

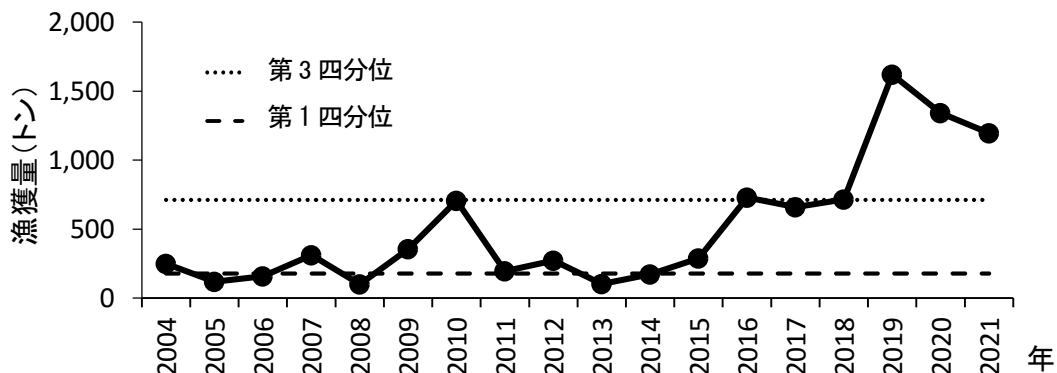
(千葉農林水産統計年報，漁業・養殖業生産統計)

- ・ 漁獲量の年変動が大きく、1978年に2,805トンを記録したが、その後、増減を繰り返し、2015年には615トンとなった。
- ・ その後、増加傾向となり、2020年の漁獲量は1,609トンであった。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(漁獲量)から4分位により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、東京湾A漁協における中・小型まき網の漁獲量で判断した。
- ・ 2021年の資源水準は過去18年間で高位、最近5年間の資源動向は増加傾向にある。

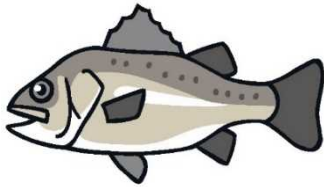


東京湾A漁協における中・小型まき網のコノシロ漁獲量の経年変化

資源管理の取り組み

- ・ 東京湾においては、中・小型まき網では冬期の休漁期間の設定など、小型機船底びき網でも休漁日の設定、操業時間の制限、漁具の制限など、コノシロ以外の魚種も含めて漁業者による自主的な資源管理が行われている。

スズキ（東京湾）



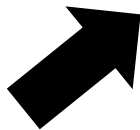
- ・ 漁獲のほとんどが東京湾内湾・内房海域で、中・小型まき網、小型機船底びき網などで漁獲される。
- ・ 東京湾における産卵期は10月下旬～3月上旬で、産卵場は東京湾の湾口部にある。
- ・ 1983年から1998年まで種苗放流を実施し、以降休止。

資源評価

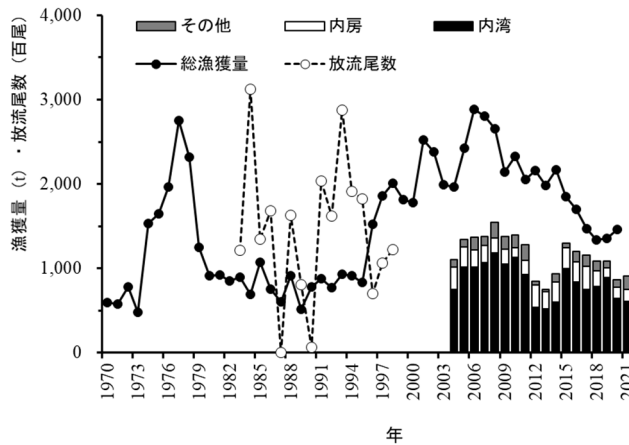
水準：高位



動向：増加



漁獲量



すずき類漁獲量と放流尾数の経年変化

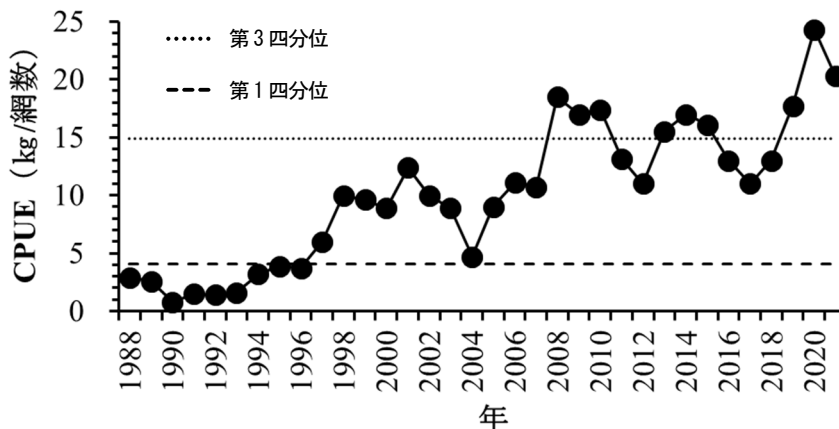
千葉県農林水産統計年報（総漁獲量），千葉県調べ

千葉県におけるすずき類の漁獲量は、1990年代後半に著しく増加し、2006年に過去最高の2,886tとなった後、減少傾向にある。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から4分位により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、小型機船底びき網の操業日誌から集計したCPUE（1網当たりの漁獲量）で判断した。
- ・ 2021年の資源水準は高位、最近5年間の資源動向は増加傾向にある。

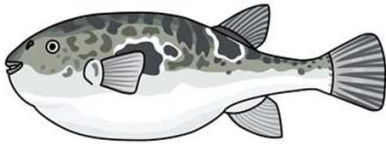


小型機船底びき網の標本漁船によるスズキの1網当たり漁獲量(kg/網数:CPUE)の経年変化
標本漁船の隻数は年によって変わり、その範囲は8~16隻

資源管理の取り組み

- ・ 東京湾においては、小型機船底びき網で休漁日の設定、操業時間の制限、漁具の制限など、中・型まき網で冬期の休漁期間の設定など、漁業者による自主的な資源管理が行われている。

トラフグ



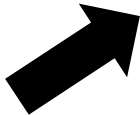
- ・ はえ縄, 定置網, 小型機船底びき網, まき網などで漁獲される。
- ・ 1歳で全長26cm(0.4kg), 2歳で40cm(1.4kg), 3歳で48cm(2.9kg)に成長し, 寿命は10年程度と考えられている。
- ・ 産卵期は4~5月で, 成熟年齢は雄で2歳, 雌で3歳。

資源評価

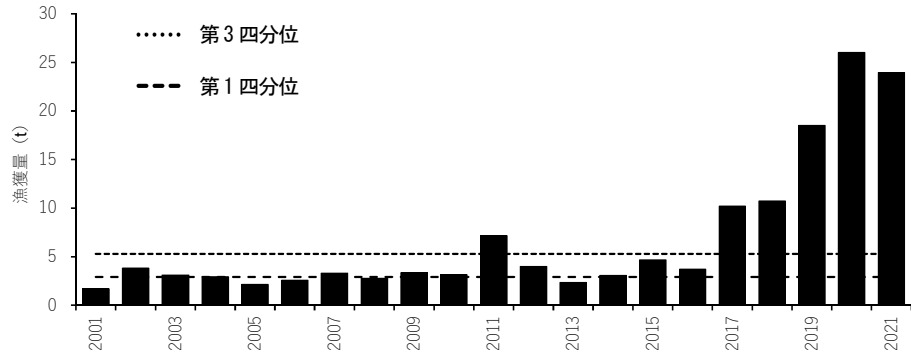
水準：高位



動向：増加



漁獲量



漁期年 (4月~翌3月)

県内12漁協におけるトラフグ漁獲量の経年変化 (千葉県調べ)

12漁協におけるトラフグ漁獲量は, 2001~2016年漁期は2011年漁期を除き約2~5トンで推移していたが, 2017年漁期に10.2トンに急増し, その後も増加傾向を示し, 2021年漁期は23.9トンであった。

注) 資源水準は, 原則過去20年以上の評価指標値(漁獲量)から4分位により評価した。
資源動向は, 最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源状況の判断

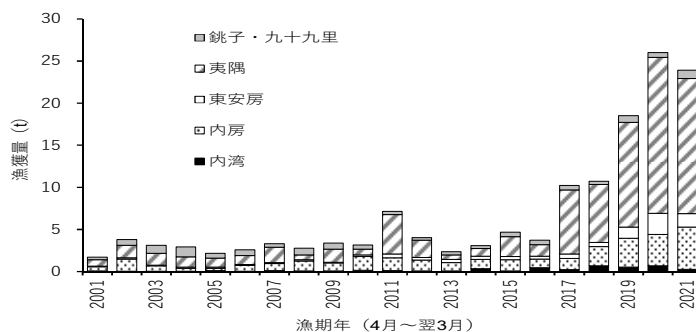
- ・ 資源水準及び動向は, 漁獲量の推移から判断した。
- ・ 2021年漁期の資源水準は高位, 最近5年間の資源動向は増加傾向にある。

資源管理の取り組み

- ・ はえ縄では操業期間の制限など漁業者による自主的な資源管理が行われている。
- ・ 県では, 放流種苗の移動・分散及び放流効果を把握するため, 2015~2019, 2022年に東京湾において, 2020, 2021年に外房において標識放流試験を行っている。

備考

現在, 国は伊勢・三河湾系群(三重~静岡)の資源評価を行っている。同系群と千葉県沿岸域に分布するトラフグとの関連を明らかにするため, 水研機構と連携して調査を進めている。

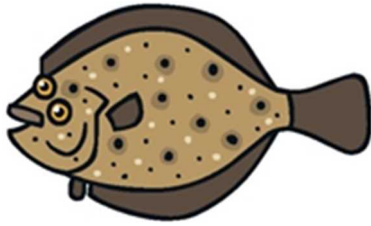


漁期年 (4月~翌3月)

(参考) 地域別トラフグ漁獲量の経年変化 (千葉県調べ)

夷隅地域のはえ縄で漁獲が急増している。

ヒラメ



- ・ 砂浜域に生息し、銚子～富津の沿岸で底びき網、刺し網、定置網などにより漁獲される。
- ・ 1歳で全長35cm、2歳で45cm 体重1kgに成長し、3歳以降は雌雄差が拡大し、5歳では雄が60cm 体重2.3kgに対して雌では70cm 体重3.9kgに達する。
- ・ 産卵期は3～6月。
- ・ 1982年から種苗放流を実施。
- ・ 漁獲量変動・移動特性等から、勝浦市以北は太平洋北部系群、鴨川市以西は太平洋中部系群に区分される。

資源評価

太平洋北部系群

(勝浦市以北)

水準：低位



動向：横ばい



太平洋中部系群

(鴨川市以西)

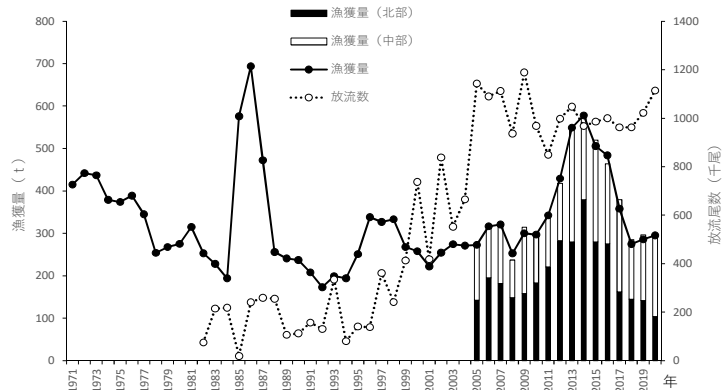
水準：中位



動向：横ばい



漁獲量



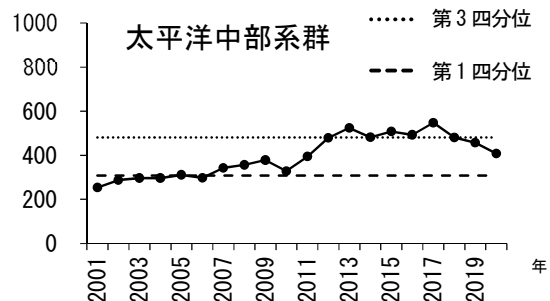
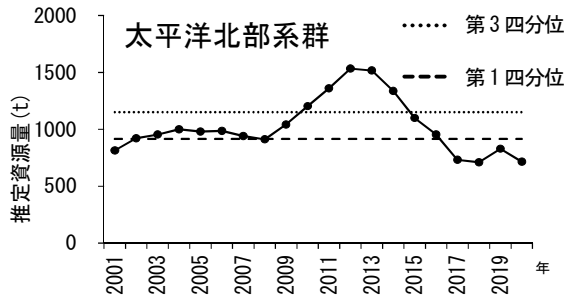
千葉県におけるヒラメ漁獲量と放流尾数の経年変化
(漁獲量は千葉県農林水産統計、漁業・養殖業生産統計、系群別漁獲量は千葉県調べ)

1971年以降、漁獲量が一時的に増加した1985～1987年及び2013～2015年を除き、300t前後で推移した。2020年は295t。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(資源量)から4分位により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、漁獲物測定、統計から推定される1歳魚以上の資源量で判断した。
- ・ 2020年の資源水準は太平洋北部系群で低位、太平洋中部系群で中位水準にある。最近5年間の資源動向は両系群で横ばいとなった。

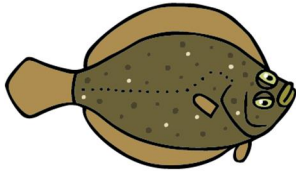


太平洋北部系群及び太平洋中部系群における推定資源量の経年変化

資源管理の取り組み

小型魚(全長30cm未満、底びき網は25cm未満)の再放流や漁具設置時間の制限など、漁業者の自主的な資源管理が行われている。また、関係機関が連携し、種苗放流を行っている。

マコガレイ（東京湾）



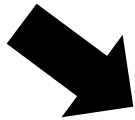
- ・ 東京湾においては、内湾から内房海域で、小型機船底びき網、刺し網で漁獲される。
- ・ 産卵期は冬季で、湾奥、神奈川県沿岸、内房などに産卵場があり、湾奥が主産卵場と考えられている。
- ・ 1991年から種苗放流を実施。

資源評価

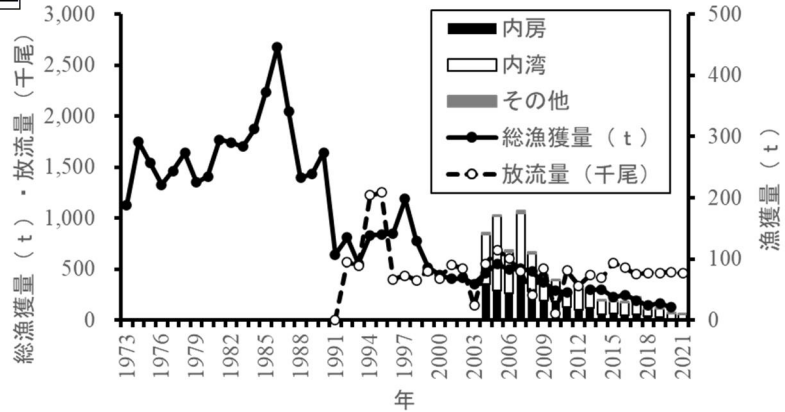
水準：低位



動向：減少



漁獲量



かれい類漁獲量，マコガレイ地区別漁獲量及び放流尾数の経年変化
千葉県農林水産統計年報（かれい類漁獲量），千葉県調べ

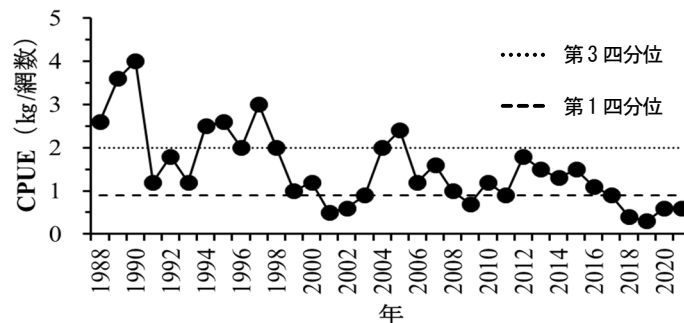
東京湾におけるかれい類の漁獲量は、過去にはイシガレイ主体であったが、その後、マコガレイ主体となった。

マコガレイの漁獲量は、長期的に減少傾向にあり、2008年には、100t程度だったが、近年は10~20t程度に低迷している。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から4分位により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、小型機船底びき網の操業日誌から集計したCPUE(1網当たりの漁獲量)で判断した。
- ・ 2021年の資源水準は低位、最近5年間の資源動向は減少傾向にある。

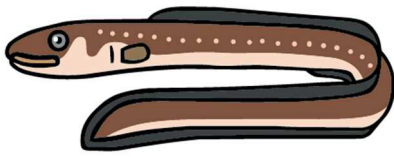


小型機船底びき網の標本漁船によるマコガレイの1網当たり漁獲量(kg/網数; CPUE)の経年変化
標本漁船の隻数は年によって変わり、その範囲は8~16隻

資源管理の取り組み

- ・ 内湾の小型機船底びき網では、休漁日の設定及び漁具の制限、稚魚や産卵親魚の保護のための禁漁区設定、県との稚魚分布調査など、漁業者による自主的な資源管理が行われている。また、1991年から県が種苗放流を行っている。

マアナゴ



- ・ 東京湾においては、あなご筒、小型機船底びき網で、銚子・九十九里においては、沖合底びき網、小型機船底びき網、延縄で漁獲される。
- ・ 産卵場は、沖ノ島島南方の九州ーパラオ海嶺上で、葉形仔魚（通称：のれそれ）が日本沿岸に来遊する。

資源評価

東京湾

水準：低位



動向：不明（※）



※近年の資源水準は低水準であり、現在、集計対象の標本漁船ではマアナゴを目的とした操業がほとんど行われていないことから、最近5年間の1網当たり漁獲量の変化は資源動向を的確に表していない可能性があり、不明とした。

銚子・九十九里

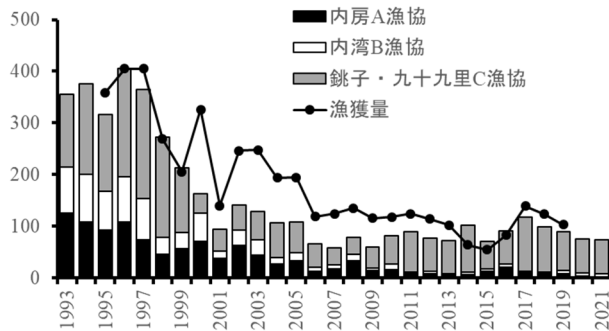
水準：高位



動向：増加



漁獲量



あなご類漁獲量の経年変化

棒グラフ：千葉県調べ

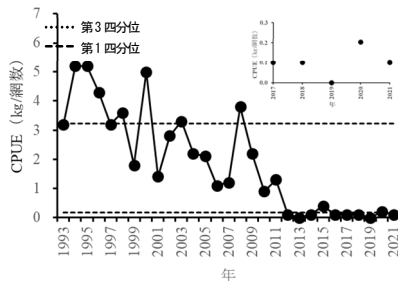
折れ線グラフ：2006年までは千葉農林水産統計年報、2007年以降は千葉県調べ

千葉県におけるあなご類の漁獲量は、1998年以降、減少傾向で、近年は東京湾では30トン前後の低水準であるのに対し、銚子・九十九里では120-180トン程度の増加傾向にある。

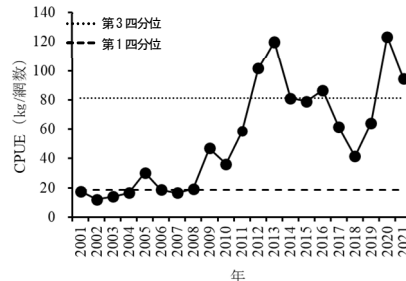
注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から4分位により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、小型機船底びき網（東京湾）又は沖合底びき網（銚子・九十九里）の操業日誌から集計したCPUE（1網当たりの漁獲量）で判断した。
- ・ 2021年の資源水準、最近5年間の資源動向は、東京湾では低位、不明（※）、銚子・九十九里では高位、増加傾向にある。



東京湾における小型機船底びき網の標本漁船によるマアナゴの1網当たり漁獲量の経年変化
標本漁船の隻数は年によって変わり、8~12隻

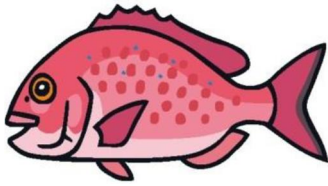


銚子地区における沖合底びき網の標本漁船によるマアナゴの1網当たり漁獲量の経年変化
標本漁船の隻数は年によって変わり、1または2隻

資源管理の取り組み

- ・ 東京湾においては、小型機船底びき網で休漁日の設定、操業時間の制限及び漁具の制限、あなご筒で水抜き穴の拡大による小型魚の保護など、銚子・九十九里においては、小型機船底びき網で改良漁具導入による小型魚の保護や沖合底びき網で漁具設置時間の制限など、漁業者による自主的な資源管理が行われている。

マダイ



- ・ 海底が起伏に富んだ岩盤または砂礫質の水域に生息し、銚子～富津の沿岸で小型機船底びき網、刺し網、定置網、釣りなどにより漁獲される。
- ・ 尾叉長は1歳で16cm, 2歳で24cm, 3歳で31cmとなり、体重は4歳で1kgを上回り、6歳で2kgを超える。
- ・ 産卵期は3～6月。
- ・ 1982年から種苗放流を実施。

資源評価

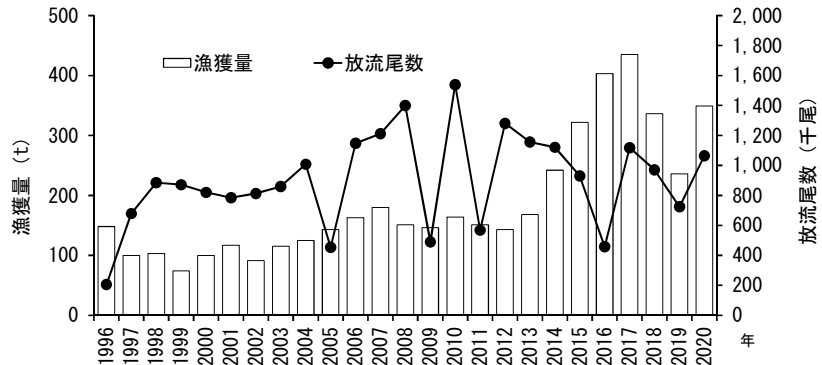
水準：高位



動向：減少



漁獲量



千葉県におけるマダイ漁獲量と放流尾数の経年変化

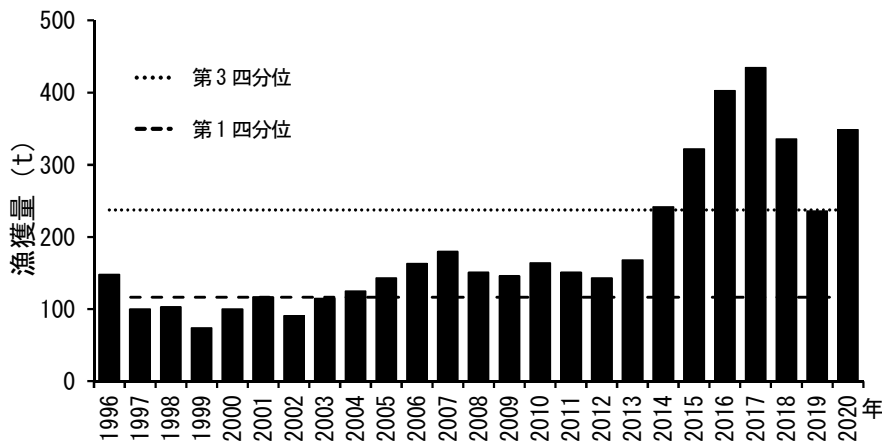
(漁獲量は千葉農林水産統計, 漁業・養殖業生産統計)

- ・ 1996年以降100～200トン前後で推移し、2014年以降は増加に転じ、2017年は過去最大の435tが漁獲された。
- ・ 2020年は349t。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(漁獲量)から4分位により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、漁獲量の推移から判断した。
- ・ 2020年の資源水準は高位、最近5年間の資源動向は減少傾向となった。



千葉県におけるマダイ漁獲量の経年変化

(千葉県調べ)

資源管理の取り組み

- ・ 小型魚(全長20cm以下)の再放流など漁業者による自主的な資源管理が行われている。
- ・ 漁業者と関係機関が連携し、種苗放流を実施している。

クロアワビ



- ・ 沿岸の岩礁域（メガイアワビより浅い）に生息し、主に外房地区で素潜りにより漁獲される。
- ・ 4～5歳で制限殻長の12cm(230g前後)に達する。
- ・ アワビ類の産卵期は10月～翌年1月。
- ・ 1968年から種苗放流が行われている。
- ・ 2022年の調査対象地区※一般漁場における放流貝の混入率は、0～18%。

※ 漁獲物調査を実施している千倉2地区、鴨川1地区、勝浦1地区。

資源評価

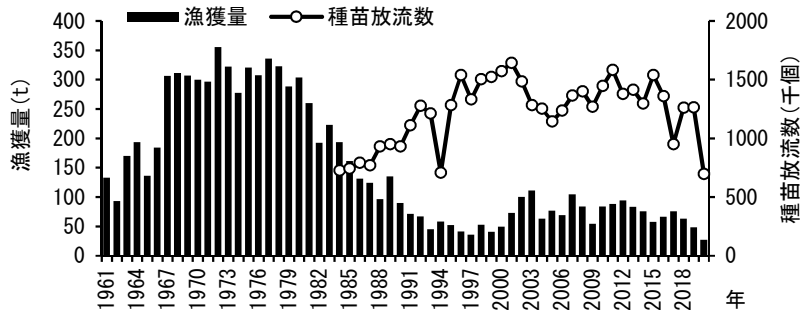
水準：低位



動向：減少



漁獲量



クロアワビ漁獲量及び種苗放流数の経年変化

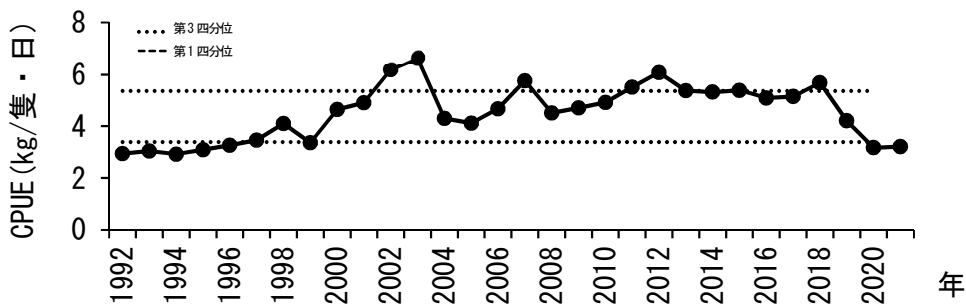
(漁獲量は千葉県調べ、種苗放流数※は栽培漁業種苗生産、入手・放流実績(全国))
※1968～1983年は不明

- ・ 最大は1972年の355t、最小は2020年の27t。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から4分位により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は主要10地区一般漁場における素潜り漁業のCPUEで判断した。
- ・ 2021年の資源水準は過去30年間で低位、最近5年間の資源動向は減少傾向にある。



クロアワビ主要10地区一般漁場素潜り漁業CPUEの経年変化

資源管理の取り組み

- ・ 千葉県漁業調整規則で殻長制限(12cm以下のものは採捕してはならない)と禁漁期間(9/16～3/31)が定められている。
- ・ 漁法の制限、操業時間の制限、種苗放流、密漁対策、禁漁区、輪採方式の導入及び稚貝保護区の設定等、漁業者による自主的な資源管理や増産活動が行われている。

メガイアワビ



- ・ 沿岸の岩礁域（クロアワビより深い）に生息し、主に外房地区で素潜りにより漁獲される。
 - ・ 4～5歳で制限殻長の12cm(210g前後)に達する。
 - ・ アワビ類の産卵期は10月～翌年1月。
 - ・ 1968年から種苗放流が行われている。
 - ・ 2022年の調査対象地区※一般漁場における放流貝の混入率は、0～10%。
- ※ 漁獲物調査を実施している千倉2地区、鴨川1地区、勝浦1地区。

資源評価

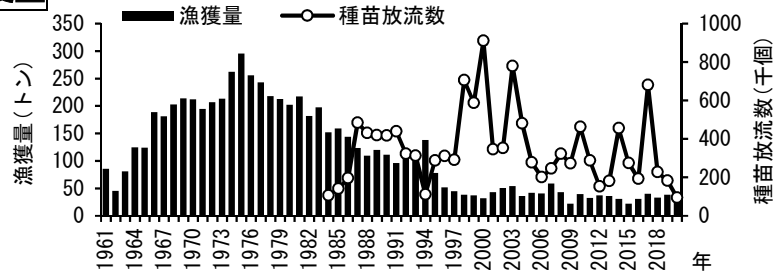
水準：高位



動向：横ばい



漁獲量



メガイアワビ漁獲量及び種苗放流数の経年変化

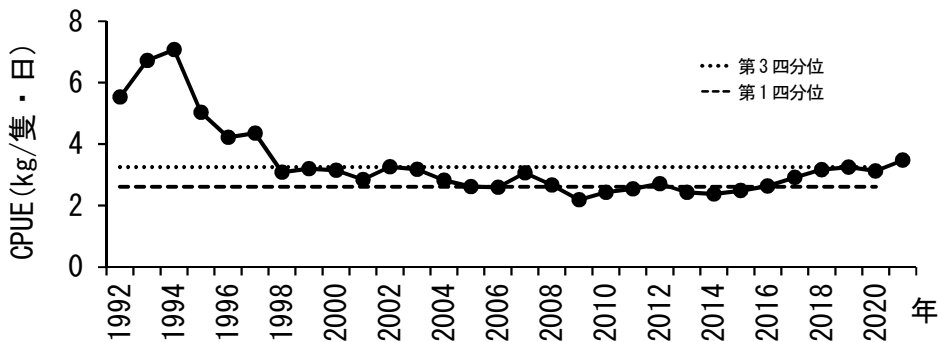
(漁獲量は千葉県調べ、種苗放流数※は栽培漁業種苗生産、入手・放流実績(全国))
※1968～1983年は不明

- ・ 最大は1975年の295t、最小は2009年の22t。
- ・ 2020年は28t。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から4分位により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は主要10地区一般漁場における素潜り漁業のCPUEで判断した。
- ・ 2021年の資源水準は過去30年間で高位、最近5年間の資源動向は横ばい傾向にある。



メガイアワビ主要10地区一般漁場素潜り漁業CPUEの経年変

資源管理の取り組み

- ・ 千葉県漁業調整規則で殻長制限(12cm以下のものは採捕してはならない)と禁漁期間(9/16～3/31)が定められている。
- ・ 漁法の制限、操業時間の制限、種苗放流、密漁対策及び禁漁区の設定等、漁業者による自主的な資源管理や増産活動が行われている。

サザエ



- ・ 沿岸の岩礁域に生息し、主に内房～外房地区で刺し網、見突き、素潜りにより漁獲される。
- ・ 3～4歳で制限殻高の7cm(90g前後)に達する。
- ・ 産卵期は5～9月。

資源評価

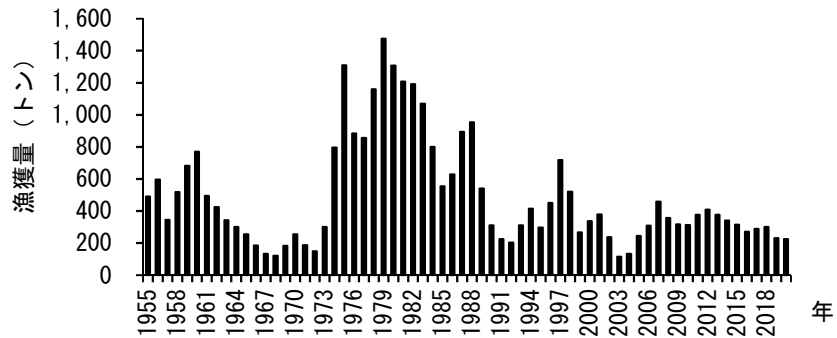
水準：高位



動向：横ばい



漁獲量



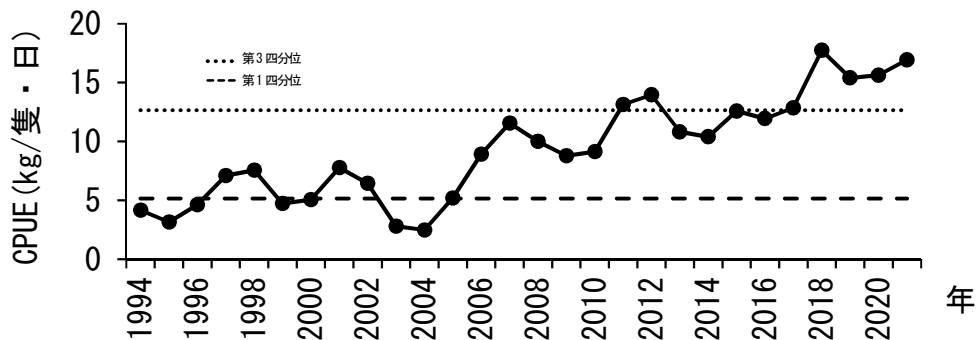
サザエ漁獲量の経年変化
(千葉農林水産統計年報, 漁業・養殖業生産統計)

- ・ 最大は1979年の1,474トン、最小は2003年の116トン。
- ・ 2020年は224トン。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から4分位により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は主要5漁協の刺し網漁業のCPUEで判断した。
- ・ 2021年の資源水準は最近28年間の高位。最近5年間の資源動向は横ばい傾向となった。



サザエ主要5漁協刺し網漁業 CPUE の経年変化

資源管理の取り組み

- ・ 千葉県漁業調整規則で殻高制限(7cm以下のものは採捕してはならない)と禁漁期間(6/1～6/30)が定められている。
- ・ 操業期間の制限など、漁業者による自主的な管理が行われている。

ダンベイキサゴ



- ・ 外海に面した砂浜海岸に生息し、九十九里では貝けた網、鋤簾（じょれん）により、鴨川ではろくろ曳き（人力による底びき網）により漁獲される。
- ・ 1歳で殻径約1.2cm、2歳で2.3cmに成長し、3歳で3.0cmとなり、寿命は5年以上と考えられ、3.5cmを超えるものも漁獲される。
- ・ 産卵期は4月～6月、11月末～翌年1月。

資源評価

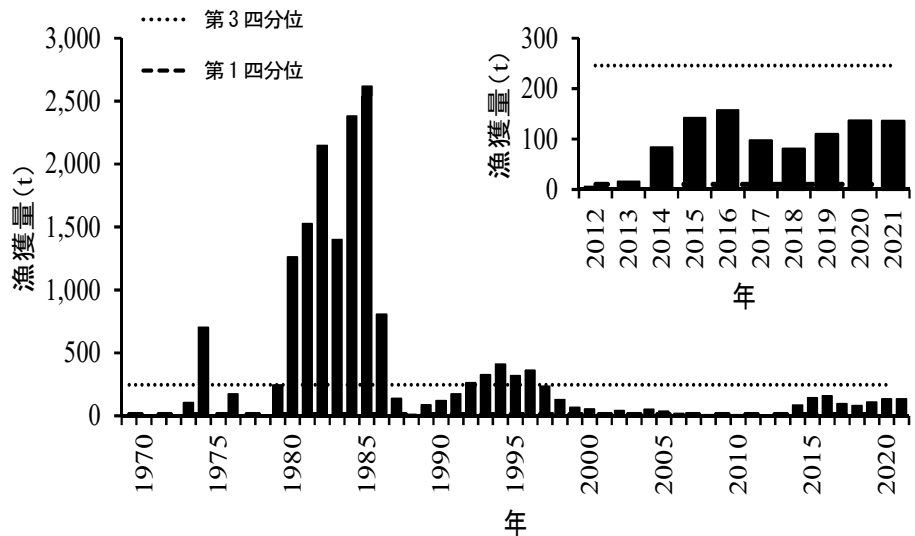
水準：中位



動向：増加



漁獲量



ダンベイキサゴ漁獲量の経年変化（千葉県調べ）

- ・ 1970年代は、1974年を除き低位から中位で推移していたが、1980年代には1,000t以上に増加し、1986年まで高位で推移していた。
- ・ 1988年には10tまで減少したが、再び増加し、1994年には400t以上の漁獲があった。その後再び減少がみられ、2012年まで低位で推移していたが、2014年以降増加し、2021年は135t漁獲された。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(漁獲量)から4分位により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び資源動向は、漁獲量の推移で判断した。
- ・ 2021年の資源水準は中位、最近5年間の資源動向は増加となった。

資源管理の取り組み

- ・ 貝けた網漁業では共同操業による水揚げプール制、操業隻数・日数の制限、網目・漁獲サイズの制限、禁漁期の設定など、漁業者が自主的な資源管理に取り組んでいる。

チョウセンハマグリ



- ・ 外海に面した砂浜海岸に生息し、九十九里では貝けた網，鋤簾（じょれん）により，鴨川ではろくろ曳き（人力による底びき網）により漁獲される。
- ・ 1歳で殻長約1cm，2歳で3～4cm（7～16g）に成長し，3歳で5～6cm（31～54g）となり，寿命は10年以上で10cm（250g）を超えるものも漁獲される。
- ・ 産卵期は6月下旬～9月。

資源評価

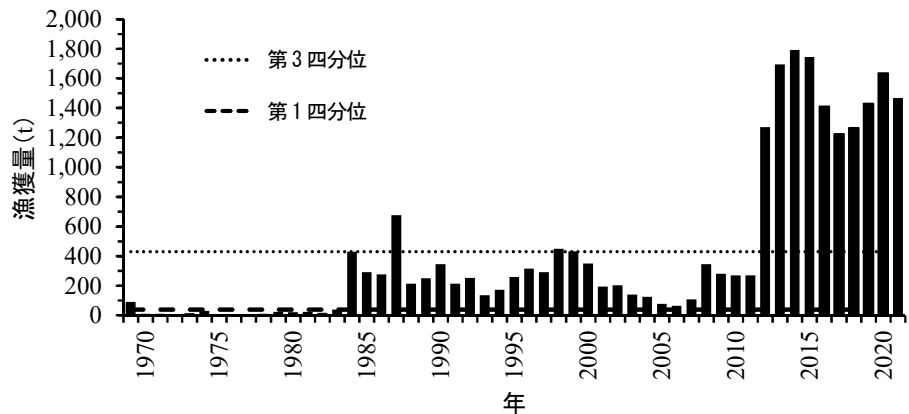
水準：高位



動向：増加



漁獲量



チョウセンハマグリ漁獲量の経年変化

(2006年まで千葉農林水産統計年報，2007年から千葉県調べ)

- ・ 1969～1983年は低位で推移していたが，1984～2011年は70～660tで増減を繰り返し，2012年に急増して以降，1,000t以上の漁獲が続いている。
- ・ 2012年は，2009年生まれの卓越年級群の加入により漁獲が急増したと考えられる。
- ・ 2009年以降も継続的な稚貝の発生と漁獲加入が確認されている。
- ・ 2021年は1,467t。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(漁獲量)から4分位により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び資源動向は，漁獲量の推移で判断した。
- ・ 2021年の資源水準は高位，最近5年間の資源動向は増加傾向となった。

資源管理の取り組み

- ・ 貝けた網漁業では共同操業による水揚げプール制，操業隻数・日数の制限，網目・漁獲サイズの制限，禁漁期・資源保護区域の設定，小型貝の沖出し放流など，漁業者が自主的な資源管理に取り組んでいる。

イセエビ



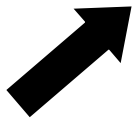
- ・ 沿岸の岩礁域に生息し、主に外房地区で刺し網により漁獲される。
- ・ プエルルスに変態し、沿岸域に着底後2歳で制限体長の13 cm(80g前後)に達する。
- ・ 産卵期は5~9月。

資源評価

水準：高位

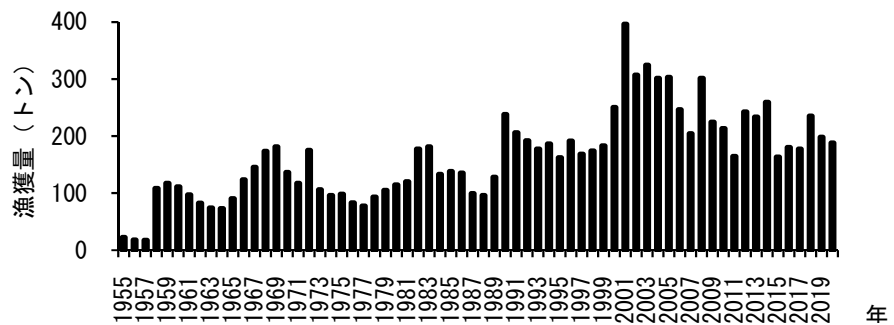


動向：増加



漁獲量

- ・ 1955年以降緩やかな増加傾向にあり、2001年は過去最大の396 tとなった。
- ・ 2020年は188 t。

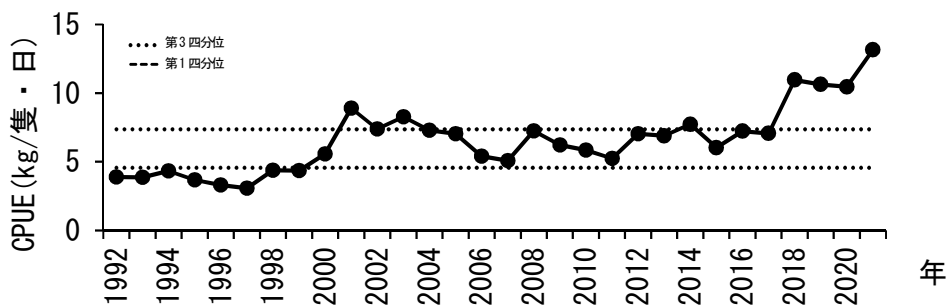


イセエビ漁獲量の経年変化
(千葉県農林水産統計年報、漁業・養殖業生産統計)

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から4分位により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は主要23地区刺し網漁業のCPUEで判断した。
- ・ 2021年の資源水準は最近30年間の高位。最近5年間の資源動向は増加傾向となった。



イセエビ主要23地区刺し網漁業CPUEの経年変化

資源管理の取り組み

- ・ 千葉県漁業調整規則で全長制限(13 cm以下のものは採捕してはならない)と禁漁期間(6/1~7/31)が定められている。
- ・ 漁具(刺し網の使用反数)の制限、操業時間の制限、小型個体の再放流等、漁業者による自主的な資源管理が行われている。

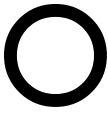
コウイカ（東京湾）



- ・ 千葉県沿岸では、主に東京湾内湾南部～内房北部で小型機船底びき網により漁獲される。
- ・ 東京湾における産卵期は春季で、アマモ類や海藻類などに産卵する。
- ・ 寿命は約1年で、産卵後に死亡するため、夏季にはほとんど漁獲がみられなくなる。

資源評価

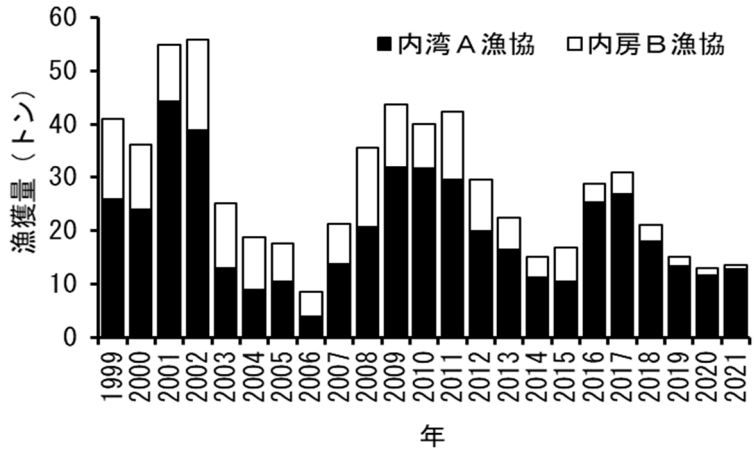
水準：中位



動向：横ばい



漁獲量



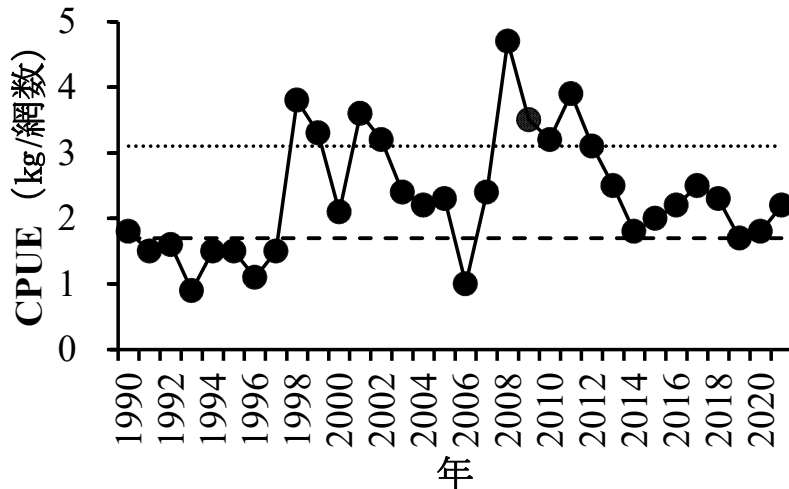
東京湾の主要2漁協におけるコウイカ漁獲量（千葉県調べ）

東京湾の主要2漁協におけるコウイカ漁獲量は、1999年以降増減を繰り返し、近年では2017年に31トンとなった後、減少傾向にある。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から4分位により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、小型機船底びき網の操業日誌から集計したCPUE（1網当たりの漁獲量）で判断した。
- ・ 2021年の資源水準は中位、最近5年間の資源動向は横ばいとなった。



小型機船底びき網の標本漁船によるコウイカの1網当たり漁獲量 (kg/網数; CPUE) の経年変化
標本漁船の隻数は年によって変わり、その範囲は8~12隻

資源管理の取り組み

- ・ 内湾の小型機船底びき網では、休漁日の設定、操業時間の制限、漁具の制限など、コウイカ以外の魚種も含めて、漁業者による自主的な資源管理が行われている。また、1996年から漁業者による産卵床の設置が行われている。

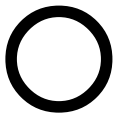
マダコ（外房）



- ・ 漁獲の多くは銚子・九十九里～外房で、たこつぼ、沖合底びき網などで漁獲される。
- ・ 広く回遊する群と地先に生息する群が存在し、広く回遊する群が漁獲量の大半を占める。
- ・ 漁獲盛期は12月～4月。

資源評価

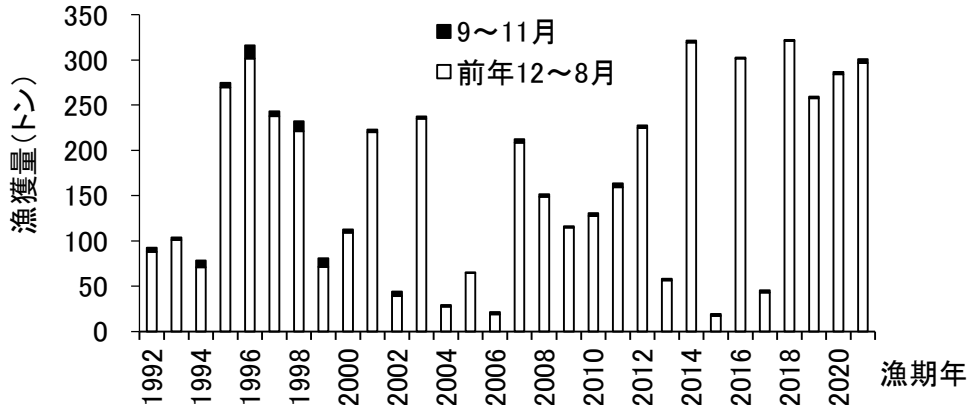
水準：中位



動向：横ばい



漁獲量



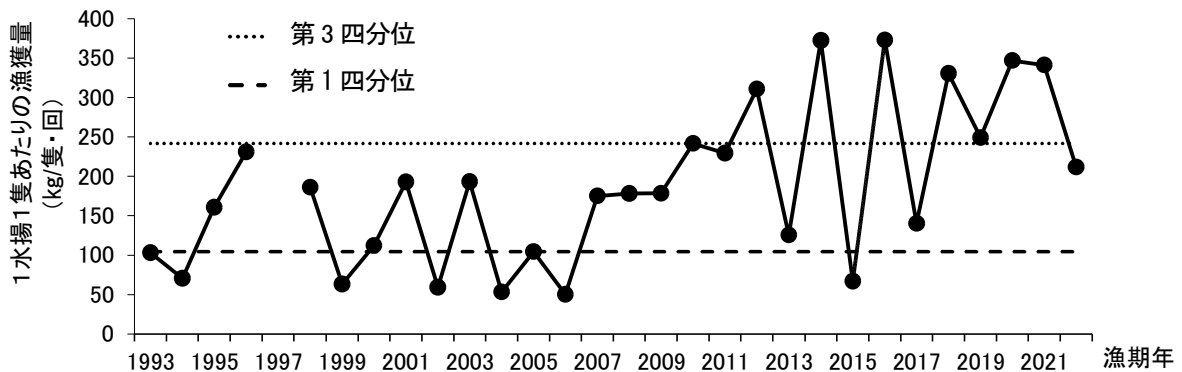
千葉県におけるマダコ漁期年別漁獲量の経年変化
(千葉県調べ。年は漁期年：前年12月～11月)

- ・ 千葉県全体の漁獲量は年ごとに大きく変動している。
- ・ 漁獲量は資源量の他、海況による回遊経路や時期の変動、茨城県以北の漁獲量等に影響を受けて変動すると考えられる。

注) 資源水準は、原則過去20年以上の評価指標値(CPUE)から4分位により評価した。
資源動向は、最近5年間の評価指標の近似式から年間5%以上の増減の有無により判断した。

資源評価の判断

- ・ 資源水準及び動向は、外房 A 漁協におけるたこつぼ漁業の1993年以降のCPUE(1水揚1隻当たりの漁獲量)で判断した。
- ・ 変動が激しいが、2022年の資源水準は過去30年間で中位、最近5年間の資源動向は横ばい傾向にある。



外房 A 漁協におけるたこつぼ漁業の CPUE (1水揚1隻当たりの漁獲量) の経年変化
※ 年は漁期年(前年12月～8月)、1997年は隻数データ不明のため欠測。

資源管理の取り組み

- ・ たこつぼ漁業の許可の制限措置として、海域ごとに操業隻数・期間が定められている。